

授業科目名	バリアフリーツーリズム実践研究Ⅰ・Ⅱ	担当教員名	吉島 一彦			
コース名	ヘルスツーリズムコース					
科目区分		単位	配当年次	実施時期	曜日・時限	形態
コース別専門科目	選択必修	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	3	Ⅰ：春学期 Ⅱ：秋学期	月・4	講義
授業概要						
<p>バリアフリーツーリズムは年齢や障害、病気の有無にかかわらずあらゆる人が旅を楽しめるようにするにはどうしたらよいかを学ぶ分野です。本講義は「調査研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を踏まえて、グループごとにバリアフリー観光に関するプランを企画し、商品化を目指します。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. バリアフリー観光プランの企画を考えることによって「企画力」を養う。 2. 企画を立てる前提としての綿密なフィールド調査で「調査力」を身につける。 3. 企画を商品化に結びつける「プレゼンテーション能力（文章力を含む）」を磨く。 						
授業の運営方法						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生の自主性を重んじ、企画のテーマについては希望を優先させます。 2. 講義だけでなく、学外教育（フィールド調査等）も行います。 3. バリアフリーツーリズムにかかわっている人を招いて話を聞きます。 4. 段階ごとに企画をまとめて発表し、受講生が互いに批判し合い、レベルを高めていきます。 5. 最終的には外部のバリアフリー観光関係者も含めた場でプレゼンテーションします。 						
関連科目・知識・スキル						
<p>調査研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（バリアフリーツーリズム）、バリアフリーツーリズム論、高齢者旅行論、バリアフリー総合研究Ⅰ・Ⅱ。バリアフリーツーリズム論、高齢者旅行論については履修が望ましいですが、義務ではありません。社会の動きを知るために新聞は読んでください。</p>						
成績評価						
<p>受講態度、レポート、発表、企画内容、プレゼンテーションなどを総合的に判断し、評価します。</p>						
教科書・参考書など						
<p>特にありません。必要に応じて資料を配布し、読んで欲しい本などはその都度、言います。</p>						
履修上の注意事項						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人数調整が必要な場合は、志望する理由を書いた書面を出してもらい、その内容によって選考します。 2. 履修中に留学する場合は、留学中にプランを決め、帰国後集中講義し、企画をまとめてもらいます。 						

授業スケジュール

【実践研究Ⅰ（春学期）】

I. イントロダクション

- ①04/05 講義の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価などを説明。
- ②04/12 大学構内及びその周辺で車いすの使い方を学ぶ。
- ③04/19 車いすを持参し、観光施設「神戸花鳥園」でバリアフリーを体験する。

II. バリアフリー観光プランの立案に向けて1

- ④04/26 現段階で考えているプランのテーマを発表し、討論する。
- ⑤05/10 バリアフリーツーリズムにかかわっているゲスト講師の話聞き、討論する。
- ⑥05/17 バリアフリーツーリズムにかかわっているゲスト講師の話聞き、討論する。
- ⑦05/24 グループごとにプランのテーマを決める。

III. バリアフリー観光プランの立案に向けて2

- ⑧05/31 各テーマを具体化するための調査計画を考える。
- ⑨06/07 調査計画案を発表し、討論する。
- ⑩06/14 調査計画を決め、レポートとして提出する。

IV. 調査

- ⑪06/21 調査計画に基づいて文献調査やフィールド調査を行う。
- ⑫06/28 調査計画に基づいて文献調査やフィールド調査を行う。
- ⑬07/05 調査計画に基づいて文献調査やフィールド調査を行う。
- ⑭07/12 調査計画に基づいて文献調査やフィールド調査を行う。
- ⑮07/26 調査計画に基づいて文献調査やフィールド調査を行う。

【実践研究Ⅱ（秋学期）】

V. 観光プランの中間まとめ

- ①09/27 これまでの調査結果をまとめ、討論する。
- ②10/04 バリアフリーツーリズムにかかわっている複数のゲスト講師招いて中間報告会を行う。

VI. 補足調査

- ③10/18 補足調査を行う。
- ④10/25 補足調査を行う。
- ⑤11/01 補足調査を行う。
- ⑥11/08 補足調査を行う。
- ⑦11/15 補足調査を行う。

VII. 観光プランの最終まとめ

- ⑧11/22 プランのまとめ作業を行う。
- ⑨11/29 プランのまとめ作業を行う。
- ⑩12/06 プランをレポートとして提出する。
- ⑪12/13 プランを発表し、討論する。

VIII. プレゼンテーションと最終レポート作成

- ⑫12/20 プレゼンテーションの準備をする。

⑬12/27 プレゼンテーションの準備をする。

⑭01/17 外部のバリアフリー観光関係者を含めた場で各プランをプレゼンテーションする。

⑮01/24 本講義で学んだことについてレポートを作成し、提出する

※ ゲスト講師（春学期、秋学期各2人）の日程は相手の都合により変わることがあります。ゲスト講師は、「夢ツーリストきたみ」の北見貴志さんらを考えています。

※ 全体の日程も研究の進捗状況によって変更することがあります。了解してください。

※ フィールド調査などにかかる費用については学生に負担をかけません。

学生への一言

バリアフリーの問題を学んでおくことは観光のどの分野に進むにしても役に立ちます。関心のある人ならだれでも歓迎します。

授業科目名	バリアフリーツーリズム実践研究Ⅰ・Ⅱ		担当教員名	松尾 信昭		
コース名	ヘルスツーリズムコース					
科目区分		単位	配当年次	実施時期	曜日・時限	形態
コース別専門科目	選択必修	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	3	Ⅰ：春学期 Ⅱ：秋学期	火・4	講義
授業概要						
<p>1. バリアフリー、即ち世界に存在する物理的な障壁のみならず、制度的な障壁、文化・情報面での障壁、心の障壁のない社会の建設をツーリズムの観点から考察する。</p> <p>2. 「バリアフリーツーリズム」をキーワードとして、社会に貢献できる人間となるためにはどう考え行動すべきかを考察する。</p> <p>3. バリアフリーツーリズムからツーリズム全体、更には観光文化学について考察する。</p>						
到達目標						
<p>1. 人に与える旅の効用について説明できる。</p> <p>2. バリアフリーとは何か、ツーリズムとは何かについて説明できる。</p> <p>3. バリアフリーツーリズムの社会における位置づけについて説明できる。</p> <p>4. 上記を踏まえバリアフリー旅行企画が作れる。販売企画が立てられる。</p> <p>5. 問題点抽出、調査研究、グループでの議論、発表、論文作成ができる。</p> <p>6. 観光業界の人間として、何より社会人として相応しい礼儀作法を身につける。</p>						
授業方法(展開)						
<p>1. 双方向性授業、すなわち講義の受講形式ではなく、毎回学生による司会、議論、グループワーク、発表を行う。</p> <p>2. 図書館での文献検索、インターネット検索。</p> <p>3. 学外調査、学外学会や研究会出席。</p> <p>4. 招聘講師との討論</p> <p>5. パワーポイントと資料によるグループ発表、個人発表。</p> <p>6. その他</p>						
関連科目・知識・スキル						
<p>1. 4年時開講の「バリアフリーツーリズム総合研究Ⅰ・Ⅱ」を継続履修とする。</p> <p>2. 「医学の基礎」、「トラベルヘルス(基礎)」、「トラベルヘルス(応用)」、「救急救命実習」は必須科目として関連。</p> <p>3. 「障がい者旅行論」、「特殊疾病旅行論」は選択科目であるが、履修すること。</p>						
成績評価						
<p>1. 履修態度、特に討議、発表などの貢献度。</p> <p>2. パワーポイントと資料による個人発表。</p> <p>3. 論文</p> <p>4. バリアフリーツーリズム関連のボランティア活動や社会参加</p> <p>5. その他</p> <p>上記総合評価。</p>						

教科書・参考書など

特に指定はなし。

履修上の注意事項

1. 履修希望者は志望理由書（800字以内）を提出のこと。
2. PC持参
3. 遅刻・欠席・早退は許可・届けを要する。
4. 文献代、コピー費等は自己負担。
5. 学外調査などでは交通費、その他費用は原則自己負担である。
6. 人数調整を要する際、志望理由書に加え面接にて選考する場合がある。

授業の柱(単元)と授業スケジュール

実践研究 I

バリアフリーツーリズム総論 ―社会の位置づけ―

第1回 導入

第2~6回 調査・研究

第7~9回 個人研究テーマ決定、パワーポイント・資料作成

第10~12回 発表

第13~14回 論文作成

第15回 まとめ

実践研究 II

バリアフリーツーリズム各論 ―企画―

第1回 導入

第2~6回 調査・研究

第7~9回 旅行・販売企画、パワーポイント・資料作成

第10~12回 発表

第13~14回 論文作成

第15回 まとめ

- (注) 1. 春学期、秋学期それぞれゲスト講師2名を予定する。但し日程は講師の都合にて後日発表。
2. 都合によりスケジュールを変更することがある。

学生への一言

3・4学年は社会にでる準備期間として重要な時期である。本講座受講生には礼節を守ることと他人への慈しみを求める。